

三木市創生計画人口ビジョン・総合戦略(案)に対する意見等の内容及び意見等に対する市の見解

項目	ご意見の趣旨	件数	市の見解
人口ビジョンについての意見・要望			
人口ビジョンについて			
1	<p>目標人口は確保できた場合にあって、自治体がなすべき組織的運営が可能なのか。</p> <p>人口50,000人になった場合の自治体像と確保出来る自治体サービスは。</p> <p>現実的背景の解析と将来像の開示について。</p> <p>日常生活に必要とされるショッピングの機会が確保される国の試算人口が5万人、しかし居住区の地理的分布、高齢者率、移動手段等々、その他条件は異なり、背景にある要因、本市に当てはめた場合目標人口50,000人の妥当性と数値的分岐点はどうか。</p>	1	<p>国立社会保障・人口問題研究所の人口推計では、2060年には、三木市の人口は39,885人とされており、人口の世代間バランスも若年者が少ない状況となっています。</p> <p>そこで、目標人口として県の人口ビジョン、国土交通省試算の都市サービス水準を維持するための人口、地方自治法での市となるべき人口要件をもとに5万人としたものです。</p> <p>その人口を維持していくための、市の施策としては、現在の人口減少の課題の分析のもと住宅地域や農村部など、地域に応じた施策を盛り込んだ総合戦略を定め、展開していくものであり、都市のコンパクト化や農村部における生活サービスの集約などにより、人口減少の中で、行政サービスの維持や生活の質とくらしを保つとともに、今後も、豊かなくらしを守るために自治体サービスの検討・実施に取り組みます。</p> <p>なお、人口減少に伴い、自治体の規模を縮小せざるを得ない状況になった場合でも、市民の皆様への行政サービスを維持できるよう努めます。</p>
総合戦略についての意見・要望			
雇用対策について			
2	<p>三木市の企業に三木市民を雇用すれば(雇用して2年以上働いた場合など)企業側に報酬を与えるという制度を作れば、定住につながると思う。</p> <p>また、他の自治体の成功事例として格安住居の提供があり、それらによる定住促進をすすめてはどうか。</p> <p>「背景」は三木市の低賃金を指摘している。「若者がより優良な雇用を求めて流出している」ことを受け止めるなら、これへの対策を考慮すべきである。公契約条例をより発展させ、その成果が得られる手だてを打っていくべきである。</p>	1	<p>現在、若年者を新たに雇用する事業所への助成を行っています。今後ご意見のとおり継続・見直しを図るとともに、「金物産業等、地場産業の振興」、「農業の株式会社化等による経営革新」、「既存産業の活性化」、「高速道路網を活用して人を呼び込む大型集客施設の誘致」などにより、多様な雇用の促進を図ります。</p> <p>また、緑が丘地域での、まちの再生モデルの展開をはじめ、高齢者の地区内の住み替えに伴い、空いた住宅をリフォームすることで、廉価な住宅を増やすなど、定住促進を図ります。</p>
三木市の顔づくりについて			
3	<p>若者が集えるまちの活性化について、まずは三木市の中心市街地に「三木市の顔となる場所」が無い現状を、先決として検討するべきでは。加古川市の加古川駅周辺、三田市の三田駅周辺といったような商業の中心地かつ、電車・バス交通の集約地となる場所を中心駅として選定の上、大胆な整備再開を計画し、若者が集える三木市の顔となる場所を作り出すことで中心市街地の活性化、ひいては粟生線やバス交通の活性化に繋がるのではないかと。</p>	1	<p>三木市の優れた地域資源を掘り起こし、磨くとともに、民間活力を活かすなかで中心市街地の活性化を図っていきます。</p> <p>また、ご意見のとおり、まちのイメージアップや魅力発信において「まちの顔づくり」が必要です。</p> <p>そこで、柱の一つである「高速道路を活用した大型集客施設の誘致」を行い、また、市内への人の流れを創り、中心市街地を活性化の中で「高速道路利用者を大型集客施設とあわせて市内の観光施設や中心市街地へ誘引し、まちの活性化を促進する。」としています。「若者が集える三木市の顔となる場所を作り出すこと」については、ご意見として参考にさせていただきます。</p>
総合戦略策定のプロセスについて			
4	<p>総合戦略の体系と9つの柱について、若者のニーズや声がかうだから総合戦略の柱をこのように反映しました、といったことが見えてこない。金物産業、農業等に従事してみたい人の割合が多いとか、ゴルフに対して誇りを持っている、ゴルフを始めたいといった潜在的な要求があることが証明されるデータはあるのか。</p>	1	<p>若者のニーズをデータ集積したものではなく、人口減少の現状と原因を分析した中で課題を整理した結果、若者が市外へ転出している原因等がわかりました。そこで、課題解決とともに、三木の特性やまちの強みを活かす戦略として、「金物」「農業」「ゴルフ」での活性化などを計画に盛り込んでいます。</p> <p>三木市の基盤産業である金物産業、農業や西日本一の数を誇るゴルフ場といった地域資源を磨いていくなかで、付加価値をつけ、新たな雇用を生み出していくために、各事業を実施していきます。</p>

総合戦略のPDCAについて		
5	<p>今回の過大すぎる案件、パブリックコメントの機会を経て対応される意義は大きく期待がかかる。今後二十数年を超えて推進される事業、結果を出すには時々の検証を可能にする情報収集機能を持つ自治体を核に市民の参加意欲が課題。現実的な情報を発信し、危機感と克服に対する市民感覚が維持出来得る組織的な体制固めが必要。</p> <p>共感が得られる魅力を、如何に発信できるか。ハードとソフト両翼に視野をおくビジョンが必要。 右下がり現実、負の危機に立ち向かう政策にあつて、財源が裏付けとなる支援援助は早晚限界がくる。将来に亘り住み続けたい街創りの課題は、人間性、温かみを感じる環境を育てること。</p> <p>既存施設の見直しと活用。そして、文言に拘らず足腰を固めた目標、スケジュール、実行、検証サイクル等々、事案に対し未知の奥深さを感じる。</p>	<p>1</p> <p>総合戦略の実施にあたっての進行管理は、各分野の専門家や市民の方にも加わっていただき構成する「創生計画策定検証委員会」による検証とともに、「PDCAサイクル(計画、実施、検証、改善)を活用し、見直し(ローリング)を加え、中長期的な視野での改善も図っていきます。 総合戦略における各施策の実施にあたっては、市民の皆様とともに進めなければならないものであり、それぞれの事業において、広報や市のHPを通じて情報を共有しながら進めていきます。 また、財源に関しては、できるかぎり民間の活力を活かした事業の展開を進めるとともに、住み続けたいまち、多世代が共生できるまちづくりを進めるためにも、まちづくりに市民の皆様が参画していただくことで、相互に人間性、温かみを感じられる環境につなげていきたいと考えます。</p> <p>1</p>
地理的要因について		
6	<p>三木市の北播磨という地理的条件や既存施設など、今後にもぎわいを保ち、回遊客など望むことが可能なのか。 リスクが大きいものに市の予算をつぎ込むのは賛成できない。基礎的な土木工事に市負担はしない方がよい。投資に見合うリターン効果はどの程度か、より十分な市場調査等を実施し、慎重に行うべきである。</p> <p>三田西の工業団地もミツカン付近へさらに拡大しているので若者対策の雇用の場としては、三木山よりもそちらの方に視点を置き開発すべきである。</p> <p>三木市のみならず兵庫県内、関西経済圏を含めてアベノミクスの成果は出ているとはいえない。この経済情勢は三木市の行政単独では解決できない。 逆に経済成長が右肩あがりでないことを踏まえた、三木市の「創生計画」が必要ではないか。生活における量から質への転換を追求すべきである。</p> <p>大型集客施設を三木SA北に整備し、若者の雇用を創出するとのことだが、計画地は小野市の隣接地でもあり、施設整備に伴い就業した若者が、アパート等の賃料が安い小野市等市外に生活の場を置くことも考えられるのではないか。 若者向けのアパート等集合住宅(特に三木地区)の供給と入居に係る費用補助など、若者を市内に繋ぎとめる施策を検討してはどうか。</p>	<p>5</p> <p>大型集客施設については、市の調査業務の結果、山陽自動車道三木SA北側用地は、高速道路網の要衝であり優れた立地を活かせるということから事業計画地として決定いたしました。事業計画地は、近畿地方はもとより中国、四国地方、さらにはインバウンドなど広域的に大きな集客力を見込むことができ、まちの活性化の新たな拠点として計画しています。 豊かな自然が残る北播磨の里山空間にここにしかない、『思いっきりときを忘れ、「たべる・あそぶ・くつろぐ」ことのできる魅惑空間』をコンセプトとした集客施設を誘致し、この施設を玄関として、市内へと人の流れをつくることで、市街地の活性化につなげていきます。このことから、にぎわいを保ち、回遊客の増加を望めると考えます。 加えて、大型集客施設の誘致だけでなく、既存産業の振興策も押し進めることで、若者が働きやすい雇用促進を図ります。 なお、事業の実施にあたっては、民間活力を活かした事業を展開することを考えており、官民それぞれの強みを活かすことにより事業を進めてまいります。 また、住環境については、市内の集合賃貸住宅の平均賃料は隣接する市に比べ高い状況ですが、柱の一つである、「緑が丘をモデルとしたまちの再生」では、引越し助成・住替え促進・子育て世代用住宅等リフォーム助成や、家賃補助も検討していきます。若者を市内に繋ぎとめる施策については、まず、緑が丘でモデル的に進め、他地区への導入も含め質の高い住環境整備に努めていけるよう、検討していきます。</p> <p>1</p> <p>1</p>
総合計画について		
7	<p>自治元年、日本一美しい街を目指した総合計画。計画は人口問題並びに社会的構造に言及し、懸念材料ととらえた対策が提言されている。ゴールに設定された平成30年、公言できる成果はなに。 此度のビジョンと符合する内容も多く、取り組まれた過程を教訓と活かさねばならない。 三木市の将来を見据えた総合計画、存在を如何ほどの市民、職員、議会(員)が認識しているのだろうか。 具体的かつ真摯に取り組まれたのか不透明感を覚える。</p>	<p>1</p> <p>「三木市総合計画」は、平成30(2018)年までを期間と定め、平成19(2007)年12月に「まちがめざす目標と経営の方針」をまとめ、策定しました。 その後、総合計画をベースに据え、「日本一美しいまち三木」の実現に向け、各施策を市民の皆様と行政がともに力をあわせる協働のまちづくりにより進めています。 そうした中、平成23(2011)年5月の地方自治法改正に伴い、総合計画の基本部分である「基本構想」について、法による策定義務がなくなり、総合計画を策定するかどうかは自治体が独自に判断することになりました。 既に、三木市では、総合計画に変わるものとして、マニフェスト型の政策を打ち出し、その達成に向けて毎年各部署が目標を立て進行管理を行なっています。 これまで進めてきた施策については、広報の特集ページを活用するなどし、市民の皆様にも広くお知らせしており、不透明なものではありません。 今後、三木市創生計画「人口ビジョン・総合戦略」の実施にあたって、まちの課題に対応した中で、市民の皆様への心豊かな実感を感じられるよう取り組んでいきます。</p>

政策決定のあり方について		
8	新しいビジョンを立ち上げるときに、市のトップだけで決めるのではなく、広く市民の声に耳を傾ける場を持って、市民と合意しながらすすめるようにしてほしい。その方が、市民が市の取組に対し、積極的になり、市は活性化していくと思う。	1 この度の三木市創生計画策定にあたっては、各分野の専門家で構成する「創生計画策定検証委員会」の意見もいただきながら案を作成し、パブリックコメントを通じて、市民の皆様のご意見いただいた上で計画を作成するものです。 また、今後の予定としては、各施策とも事業内容が具体化する節目節目に、広報などにより、皆様に報告するとともに、必要に応じて関係する市民の皆様との意見交換会などを経て進めていきます。
[総合戦略1関係]しごとづくりについて		
9	従来から三木市民出身者はUターンし、出身の周辺農村部へ帰っていた。それに向けての施策がない。6次産業化プランになっているとは思えない。	1 これまで三木市が全国に誇ってきた「三木金物」や「山田錦」などの地場産業の強みは、金物産業、農業とともに従事者の高齢化や後継者不足及び若年層の転出増大に伴い、事業者数や農業従事者も減少するなど基盤の弱体化が進んでいます。そこで、金物産業の振興に加え、例えば農業においては、これまでの家内産業的な農業経営を見直し、企業経営化を進め、競争力を高めていくなど持続可能な農業の創出を図っていきます。 お寄せいただいたご意見については、この「三木市創生計画 人口ビジョン・総合戦略」に基づき、「若者が働きやすい、働きがいのある仕事を創る」をめざす上で参考にさせていただきます。
[総合戦略2関係]女性をターゲットにした施策について		
10	戦略の中で「人口減少を抑えるための主なターゲット」として若年女性を挙げており、また、戦略における各施設においても女性の働く場の創出を掲げている。KPIのNo.13(大型集客施設誘致による新たな雇用人数)とNo.20(グリーンピア三木での新規雇用者数)で新規雇用者数の指数が設定されているが、雇用者の多くが男性になってしまうと、戦略が掲げる趣旨に合わないのでは、KPIに「うち女性の新規雇用者数」も設定し、戦略の成果管理を行うべきではないか。	1 人口減少を抑制するために、展開していく施策の内容は、若年女性はもちろん、若者全般に対する施策であることから、KPIにおいては、男女を分けて設定していません。 女性に限定した雇用数のKPIについては、女性の社会進出を促進する目的もあることから、今後、PDCAを行う中で、検討させていただきます。 なお、新たな雇用の創出にあたっては男性のみになってしまうのではと懸念されていますが、男性、女性に偏りが生まれないよう多様な雇用づくりに努めていきます。
[総合戦略2関係]企業誘致について		
11	三木サービスエリア北側の50ヘクタールもの自然を壊して、大型集客施設を誘致するのは、絶対反対。この計画より、情報公園の誘致活用状況を検証して、市民に報告してほしい。	1 大型集客施設については、三木市の新たな若者の雇用と定住につなげるための重要な拠点として、誘致を進めるものです。豊かな自然は三木市の魅力(地域資源)であり、環境に配慮し、自然も活かした施設にしたいと考えています。 なお、情報公園都市については、現在全ての区画が契約済みとなっており、市のHP、広報みき、記者発表などによって市民の皆様にお知らせしています。
[総合戦略2関係]娯楽施設について		
12	三木には家族や友人と一緒に楽しめる音楽や演劇といった娯楽がない。また演劇の発表の場は音楽以上に少ないと感じる。	1 確かに、三木市には遊ぶ場や出会いの場、くつろげる場などが少ない状況です。 そのため、このたび計画している大型集客施設は、『思いっきりときを忘れ、「たべる」「あそぶ」「くつろぐ」ことのできる魅惑空間』をコンセプトに人が集う施設を想定し、まちのにぎわいにつなげていくものです。 また、お寄せいただいた演劇の発表の場などのご意見については、この「三木市創生計画 人口ビジョン・総合戦略」に基づき、「くらしの豊かさを実感し、いつまでも住み続けたいまち」をめざす上で新たな若者のイベントを計画していく上で、参考にさせていただきます。
[総合戦略3関係]観光施設について		
13	観光または三木に来た方の宿泊施設の確保が必要。泊まる場所がないので皆、小野に行ってしまう。	1 グリーンピア三木ではリニューアルを機に、現状のホテル改修に加えて、新たに建設されるハイグレードなホテルやヴィラなど宿泊施設の強化などが計画されています。その他民間事業者による宿泊施設の整備、誘致も検討していきます。

[総合戦略4関係]緑が丘駅前周辺のまちづくりについて		
14	<p>緑が丘中1丁目イベント広場を多目的に利用できるよう改良してほしい。 また、駅前に桜並木による魅力づくりを進めてほしい。</p> <p>防災公園で鹿を飼い、神鉄緑が丘駅前に鹿のプラモデルを数個設置して欲しい。 また防災公園内に全国初の100m長水路プールを造り全国にアピールしてはどうか。</p> <p>神鉄沿線に広大なバラ園を造り、神戸方面からの観光客を誘客してはどうか。 加えて、神鉄沿線に女子グランドゴルフ指導者養成所をつくり、女子プレイヤーの育成してはどうか。</p>	1 お寄せいただいたご意見については、この「三木市創生計画 人口ビジョン・総合戦略」に基づき、「くらしの豊かさを実感し、いつまでも住み続けたいまち」をめざす上で参考にさせていただきます。 しかしながら、地方創生では「地域の特性」、「地域にあるもの」、「民間活力」を活かすことが重要であるため、現時点では長水路プールやバラ園など、新たに造ることは考えていません。
[総合戦略4関係]緑が丘のまちの再生について		
15	<p>高齢者向けの住宅を作るというように読めるが、住居はその家族の歴史がある。いまの家でできる限り暮らしたいと願う気持ちを大事にしてほしい。</p> <p>緑が丘を高齢者と若い世代が共生していくモデルとしての構築について。拙者の子も住んでいるが、緑が丘の駅前住宅では何かと便利。仮にここでの成功が他の三木市の成功に合致することは少々、論旨に無理があり根本解決には程遠い。 であれば、駅前住宅型、郊外型、郡部型などとすべきである。</p>	1 市内で最も高齢化率が高く、空き家・空き地が増えてきている緑が丘において、まずまちの再生のモデルとして取り組むものです。リフォームや住み替えなどニーズに合わせた住環境の整備を行い、その中で高齢者と若い世代が共生して、安心して住み続けられるような住まいや街並みの再生とともに、ソフト面としての新たなライフスタイルまで含んだものとしています。もちろん地域によって課題は異なるため、地域毎に合った形で進めていきます。
[総合戦略5関係]情報発信について		
16	三木市で人々がよく集まる場所(駅や観光地、祭り等)に三木市の強み(三木市における10のランキング等の詳細な情報)である部分を発信していくことが大事。	1 お寄せいただいたご意見については、(5)「住み心地」の向上による定住の促進の施策3の定住につながる三木の魅力を「住みよさ」として情報発信の参考にさせていただきます。 三木市の住みやすさなど、まちの強みについては、ご意見のとおり、情報発信に努めていきます。
[総合戦略5関係]文化の活用について		
17	湯の山ギャラリーの染型の収集、研究の質の高さに注目している。歴史資料館で展示し、学芸員がしっかり受け継いで市民に公開していただきたい。 他にも相野飛行場の調査など、市民の持っている文化の力を励まし、市の文化力にしてほしい。ハコモノではない文化の中身をつくってほしい。	1 市内にある『文化や歴史資料などの宝』をまちの資源として有効に活用し市内外の皆様に情報発信します。あわせて文化の伝承も行っていきます。
[総合戦略5関係]「住み心地」の向上について		
18	<p>スポーツツーリズムについて、ゴルフを主とした取組が掲げられており、ゴルフ場が多数集まる三木市ならではの戦略だと思う。一方で、総合防災公園の各施設やリニューアル予定のグリーンピア三木といった資源をさらに生かし、企業人口の多い各種スポーツのプロチームや日本代表チームの練習試合や合宿を誘致するなど、スポーツ振興や主に市外からの交流人口の増加につながる取り組みを検討してはどうか。(例えば、サッカーや陸上の日本代表に総合防災公園陸上で練習してもらい、宿舎はグリーンピア三木の宿泊施設に設けるなど)</p> <p>エコタウン化の推進について、KPIとして「ゴミの資源化割合」が設定されているが、これを達成するためには、「埋め立てするゴミ」の抜本的見直しが必要だと思う。安易に埋め立てされるゴミが過大で、市民が捨てる際に少し部品を分解するなどすれば資源化できるゴミも多く、市民の意識改革が必要。 また、ゴミの総量に対する事業系廃棄物の割合も大きいので、事業者のゴミ排出量を抑制することも重要。 新たなごみ処理システムの構築など市が主導する施策だけでなく、市民や事業者が主体的に行う取組を検討し、戦略に盛り込む必要があると考える。</p>	1 三木市のまちの特徴の一つにグリーンピア三木や三木ホースランドパーク、三木総合防災公園など大規模公園を有する強みがあります。地方創生は、「ないものねだりではなく、あるもの探し」。三木のまちがもつ魅力(資源)を効果的に活用し、まちの活性化につなげていきます。お寄せいただいたご意見については、この「三木市創生計画 人口ビジョン・総合戦略」に基づき、「くらしの豊かさを実感し、いつまでも住み続けたいまち」をめざす上で参考にさせていただきます。 また、循環型社会を構築していくには、ご意見の通り、市だけでなく市民や事業者の意識改革が必要と考えます。今後の取組について検討し、積極的に啓発していきます。

[総合戦略7関係]子育てにかかる施策について		
19	若いご夫婦の方々に三木での生活を楽んでもらうためには、小さい子どもたちの面倒を見るベビーシッターを準備できればと思う。方法は子どもの面倒を見る場所をつくったり家庭を訪問する形でも、いろいろ方法があるかと思うが、本当に信頼できる制度をつくる事が出来れば若いご夫婦にとって「魅力あるまち」になると信じている。	1 三木市では、「育児の援助を受けたい人」(依頼会員)と「育児の援助を行いたい人」(協力会員)とがお互いに会員になって子どもを預けたり預かたりして子育てを地域で支えるシステムとして「ファミリーサポートセンター制度」があります。 ご意見をふまえ、この制度の啓発とよりよい事業となるよう推進していきます。
[総合戦略7関係]子ども園について		
20	民間中心の子ども園施策で新入市民、Uターン希望者の失望が大きい。	1 「三木市幼保一体化計画」で、公立・民間の区別はなく、「教育・保育」は、遊びや生活を通して自尊感情や社会性を養っていく実践をしており、核となる取組に全く差はありません。 今後もしっかり三木市独自の共通カリキュラムに沿って教育・保育を行うとともに、保育者の「合同・交流研修」や「小学校との連携」を進めることで、新市民、Uターン希望者に「三木市に住んでよかった」と言ってもらえる就学前教育・保育を推進します。
[総合戦略7関係]教育の充実について		
21	教育の充実をお願いします。(子ども園にもエレベーターを)	1 三木市の将来を担う次世代の育成を進めるため、自立できる教育を確立するとともに、国際化に対応した英語教育や基礎学力を向上し、生きる力を育む教育の充実を進めます。 (現在、公立こども園にはエレベーターの設置計画はありませんが、今後、バリアフリー化の必要が生じた場合に検討していきます。)
[総合戦略8関係]コンパクトシティについて		
22	まちづくり(コンパクトシティ化)について、吉川地区は農村地域といえどニュータウンもある事から市の東の拠点として、西脇三田線沿いに限定し、ショッピング施設・若者世代の娯楽が楽しめる市街化の整備を三木市街地の整備と並行して計画に入れてほしい。	1 市としても三木の市街地だけでなく、市全域で若者が集い楽しみ働ける場所を創っていきたく考えています。しかしながら民間活力の活用を考える中では事業者の収支見込みが重要であり、集約が必要になってくるものと考えます。人口減少の幅を抑制しつつ、市民の皆様のくらしを守っていくのが重要な課題であり、民間活力を活用する中で今後の検討等において、ご意見を参考にさせていただきます。
[総合戦略8関係]エコタウン化の推進について		
23	ゴミ処理の民営化が打ち出されていますが、どうしてそうなるのかわからない。ゴミの問題は、私たちのくらし方に大きくかわかり、市民がどうすれば、環境にやさしい暮らしができるのかを考えていくことが大切だと思う。現在のごみ処理のやり方も含めて、もっと市民の意見を聞くべきだと思う。ゴミ処理は市が最後まで責任を持って取り組んでほしい。民営化は絶対に反対。	1 人口減少の中、めまぐるしく変化するごみ処理方法や資源化に対し、先進的な取組を行う民間の活力を活かし、自然エネルギーの活用や無駄のないごみ処理システム、資源リサイクル社会を構築します。ゴミ処理のシステムの構築については行政として、責任を持って進めていきます。
[総合戦略8関係]高齢化社会への対応について		
24	高齢化率が30%超となっている現在、「健康寿命」を延ばし、いつまでも元気に生活できる(高血圧症・糖尿病などになりにくい体づくり)ことが切実に求められている。「死ぬ」そのときまで健康を維持していくことが、家族(若者)への負担軽減になる。また、市の医療費負担も軽減されます。その上、高齢者が時間、場所を問わず市内の公共施設を利用できるなら、若者にとっても住みやすいまちといえる。 例えば、 ①「網の目」認知症予防・「ロコモ」体操ができる場所の設定やインストラクターの養成 ②単身家庭の把握やその方々の要求を聞き、できることはすぐにとりかかる。 ③健康づくりに取り組んでる自治会や団体への援助など  高齢者を含む市民目線、動線全体として欠けている。緑が丘再生だけでは不十分。	1 高齢化社会への対応策の一つとして『生涯活躍のまち構想』により、多世代が交流しながら「居場所」「やりがい」「いきがい」を持ち健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる、利便性を保つまちづくりに努めます。その中において、頂いたご意見を参考に検討していきます。
[総合戦略8関係]小さな拠点について		
25	「まちの駅」と「小さな拠点」について、戦略の中で説明があり、それぞれが果たすべき役割は異なってくると思うが、独立して整備するのか。また、運営・管理は各地域が主に行うものとするが、担い手の負担や地域のやる気・意欲によって、拠点が機能する地域とそうでない地域の差が大きく出てしまわないよう、担い手の確保と支援策が必要だと思う。	1 「小さな拠点」とは、複数の生活サービスを歩いて動ける範囲に集め、各地域との交通手段を確保することによって、車が運転できない方でも、一度に用事をすませられる生活拠点というものを考えています。また、「まちの駅」はその小さな拠点で、市内の観光・商業施設などの情報の発信や、地域住民のサロンとなる交流の場というものと考えており、それぞれを独立して整備するものではありません。 すべての地区で拠点が機能するよう、人と人との交流ネットワークを作成し、まちづくり協議会をはじめ、市民の皆様と力を合わせながら、小さな拠点をサポートする体制を考えていきます。

[総合戦略9関係]観光と公共交通のリンクについて		
26	イベントやお金を使ってもらう目的(史跡、観光、市街地)に合わせ、電車のダイヤを増やす、臨時駐車場を設け、その情報発信をすれば観光客も少なからず増加するのではないか。 JR方面からの交通の便が悪い。JR加古川線から三木駅方面へ直通でつないで欲しい。	2 バスや鉄道などの公共交通の利便性を向上し活性化を進める中で、観光客への情報発信という観点も含め、検討していきます。 なお、JR方面からの交通の便に関するご意見については、現在においても粟生駅での接続を考慮したダイヤとなっており、今後のダイヤ改正においても接続強化が図られるよう、事業者に呼び掛けを行っていきます。
[総合戦略9関係]公共交通について		
27	バス、電車などの公共交通を充実させてほしい。 近い将来、車の免許を手放さねばならない世代の増加が考えられる。高齢者が長く生き活きと自立して暮らすために、公共交通が必要。	1 団塊の世代が退職され、市内での交流や活動が活発化している中、市内移動が増加するとともに、運転免許証の返納などにより、公共交通の必要性が高まっています。 こうした状況に対応するため、昨年(平成27年)10月から、一律運賃制の導入や鉄道駅へのバスの乗入れ便数の増加などを図り、日常生活に密着している
	道路網を活かして人を集めることも重要ですが、戦略に掲げるような大きな施設を計画し、人を集めようとするならば、これと粟生線活性化が無関係になってはいけな いと思う。 神戸電鉄と各駅との連絡バスを整備したり、集客施設における買い物客に向けた神鉄の「優待乗車券」の販売を行うなど、市と交通事業者が協働し、交通利便性の確保と粟生線を利用し集客施設を訪れる人の増加といった波及効果を狙う取組を検討すべきと考える。	1 市内バス交通の見直しを行ったところ です。 今後は、人口流出や市民の皆様の一層の利便性の向上の観点から、高速道路網を活用した大型集客施設への集客だけでなく、これらの公共交通を市内の回遊にも結び付け、中心市街地の活性化につなげるよう検討していきます。 一方、ご指摘いただいている北播磨総合医療センターへの直通バスやみっきバスについては、昨年10月の見直しにおいて全て路線バスとして運行することで、重複路線の整理統合による効率的な路線への再編や一律運賃制の導入に伴う途中乗降の自由化により利便性の向上を図っております。 地下鉄の神鉄緑が丘駅への延伸については、今後の人口減少が確実である中、莫大な事業費を要することが見込まれることから、実現は極めて困難と考えられます。 このため、神鉄の駅を拠点として、鉄道とバスが連携する公共交通ネットワークの推進に注力していきます。 なお、神鉄の「優待乗車券」については、既に各種の企画乗車券として実施されています。
	三木市の高齢者の実態と計画に齟齬があり、現実問題としてバス乗客数を公表すべきと思う。実際の路線ごとの乗客数は神姫バスの三宮行だけが通勤利用者が多いが、病院行きバス、みっきバスとも利用者が少ない。三木市は神戸市隣接の唯一の郊外市。神戸への通勤の足、神戸電鉄以外の地下鉄を延伸すれば人口増や行き帰りがスムーズになり活性化が実現できる。高齢者も大事だが、生産年齢家族の神戸市流出を防ぐことが大事と考える。 神戸電鉄と地下鉄緑が丘駅がジョイントすれば飛躍的に課題解決すると思う。	1
	映画会や音楽・演劇会の開催にあたって大切な問題点に交通網がある。これらの会が行われるとき会場への夜間の運行があればよりベターと思う。特に市外からの来会を期待すれば、駅からの運行が絶対必要と思う。	1

27件

その他の意見・要望

<p>まず、今迄に計画を立てているものの実現を。別所ゆめ街道の整備など。</p>	<p>1</p>	<p>現在進行している事案を引き継ぎながら、まちの課題に対応し総合戦略において取り組んでいきます。 別所ゆめ街道については、核となるカフェテラスを平成29年秋に完成予定。</p>
<p>『思いやりと感謝の町』を副スローガンに 三木市がめざす美しいまちには当然思いやりや感謝も含まれてると思うが、あえてこの言葉を市のスローガンに入れ活動して欲しいと思う。 子どもたちの登下校に帯同して思い知ったことは信号のない交差点で、子どもたちが横断しようとして立ち止まっても、止まってくれる車が少なく。また車が止まって待っていても、今度はさっさと渡れないことと止まってくれたことへの感謝の気持ちが感じられないこと。 止まる思いやりと、ありがとうと思える感謝の気持ちを皆が持てる素晴らしいまちになりたいものである。</p>	<p>1</p>	<p>三木市創生計画では、今直面する現状と将来のまちづくりを見据えるなかで、目標として「くらしの豊かさを実感し、いつまでも住み続けたいまち」をめざしています。 豊かさとは、生活だけでなく、こころの豊かさでもあります。他者への思いやりと感謝の気持ち、あいさつが自然とできるまち。こうした人に優しいまちも豊かさのなかに当然含まれるものだと考えます。 総合戦略を着実に実行していくなかで市民の皆様とともに、市が描く将来の目標「いつまでも住み続けたいまち」をつくりあげていきます。 お寄せいただいたご意見については、この「三木市創生計画 人口ビジョン・総合戦略」に基づき、「くらしの豊かさを実感し、いつまでも住み続けたいまち」をめざす上で参考にさせていただきます。</p>
<p>全市挙げての『挨拶運動』を 挨拶はコミュニケーションの第一歩と思うが、今の子どもたちは、小学生の高学年と中学生は挨拶がほとんどできない。学校で時々挨拶運動をしているがそれもその時限りか、学校内だけの気がする。 地域のふれあいの第一歩は挨拶からと思う。挨拶は防犯効果もあると聞いている。是非、市を挙げての挨拶運動(学校のみならず、職場、自治会(家庭)も含めて一斉に)を行ってはどうか。特に家庭で挨拶が疎かになっているような気がする。最近、近所のおじさんによる犯罪があり、親御さんや子どもが誰とでも言葉を交わすことを気にする気持ちもわかるが、誘われてもついて行く時は必ず家族の方に報告していくように、しつけることで避けることもできると思う。</p>		